

韓国農林畜産食品部プレスリリース 2020 年 1 月 20 日付

ASF ハイレベル国際会議、韓国の防疫政策に高い関心

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGhWFmcmElMkY2OCUyRjMvMjU0NCUyRmFydGNsVmllldy5kbyUzRnJnc0VuZGRlU3RyJTNEJTI2YmJzT3BlbldyZFNlcSUzRCUyNnBhZ2UIM0QxJTI2cm93JTNEMTAlMjZwYXNzd29yZCUzRCUyNnJnc0JnbmRlU3RyJTNEJTI2YmJzQ2xTZXEIM0QlMjZzemNoQ29sdW1uJTNEJTI2aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbnNlJTI2c3JjaFdyZCUzRCUyNg%3D%3D>

ASF の全世界的拡散により、ドイツのベルリンで今般 1 月 17 日（金）に開催された ASF ハイレベル国際会議における現場の雰囲気は熱く、大韓民国の防疫政策に対する関心も高かった。

当初主催側（EU 保健食品安全執行委員会）は 30 か国の参加を予想したが、予想を超えて 60 か国から 300 人が参加（討議長座席 200 席）し、ロシアなどが我々に資料提供を要請した。

韓国の ASF 対応経験発表時の参加者の大多数が韓国の発表スライドを撮影し、主催者側（EU 保健食品安全執行委員会）から今後同様の会議の際にも招待を希望する意思が述べられた。IT 大国である韓国の電子車両管制システムなどに関心が高かった。

世界動物保健機関（OIE）モニック・エロワ事務総長は、大韓民国が、ASF の発生状況を、透明性を持って OIE のホームページにすぐに投稿して 182 加盟国と共有していることに感謝の意を表し、多角的かつ迅速な大韓民国の防疫政策を高く評価しつつ、効率的な状況の管理、迅速な殺処分、効率的な家畜の移動制限、積極的な事業社の説得、野生イノシシの個体数管理が体系的に行われていることに言及した。

パネルディスカッションの際、参加者は世界の養豚産業に甚大な被害を与えている ASF の拡散を防ぐためには、発生時の迅速かつ果敢な決断の必要性に共感した。

豪州農業省は、たった一人が ASF ウイルスに汚染された畜産物を搬入するとしても、そのリスクは、豪州全体に与えると不法畜産物搬入者のビザ取消し、過料の上方修正、検疫探知犬の追加配置による自国の国境検疫強化措置を紹介した。

ASF 発生国（2018 年 8 月に最初の発生）であるブルガリア長官は、防疫に脆弱な放牧飼育と防疫施設の不十分性による ASF の拡散防止のために、自国の小規模農家の予防的殺処分を推進中であることを強調して紹介した。

韓国は畜産車の GPS 管制システムを活用した約 60,000 台畜産車両の移動状況モニタリングがこれらの移動制御を可能にした重要な要因であったと説明した。

ロシアの発表者（動植物予察庁局長）は、電子履歴追跡システムを含む小規模農家の管理強化を推進中だと説明し、畜産車両の移動制御状況をリアルタイムで確認することができる韓国の GPS 管制システムに大きな関心を表明した。

野生イノシシ管理に関連して、デヴィッド・スカラン欧州連合狩猟協会（FACE）事務総長は、イノシシの移動遮断及びへい死体の調査とともに集中的な捕獲が必要であることを強調し、欧州でも野生のイノシシの個体数調整のために褒賞金支給制度を運営していると紹介した。

<ASF ハイレベル国際会議の主な発言内容>

開会演説時の主な発言内容

（EU 保健食品安全執行委員会長）ASF は、全世界的に拡散しており国際的な対応*が必要

*養豚産業の保護のための国際協力、国別対応事例の共有、汎省庁的協力など

（クロアチアの大臣）豚肉生産の国際的な脅威（threat）となる ASF の流入を防ぐためには、農場単位での遮断防疫を強化しなければならない

（ドイツの大臣）、欧州連合（EU）加盟国だけでなく、全世界に脅威を与えている ASF の拡散防止のための汎国家的な野生イノシシの管理が必要である

（日本の大臣）ASF の遮断のために国境検疫を強化し、予防的殺処分を可能にする法案を改正中で、国際協力*を活発に進行中である

* G20 農業大臣会合（'19.5）における ASF 議論、アジア地域 ASF 常任専門家会議（'19.7）の開催など

<パネルディスカッション 1（ASF の全世界的な発生と影響）での主な発言内容>

（ブルガリアの大臣）ASF 拡散防止のため小規模農家の予防的殺処分を実施しており補償金の支払いと再導入関連規定の改正が必要な状況である

（豪州の大臣）ASF の清浄地位を維持するために、国境検疫に力量を集中し、不法畜産物搬入者へのビザ取消し、過料上方修正、検疫探知犬の追加配置

(大韓民国の次官) 周辺国 (中国、北朝鮮) の ASF 発生に伴う先制的予防措置、国内発生 (19.9.16) 後に措置した重要な (key) 防疫事項の概要

(世界動物保健機関: OIE) ASF 根絶のためには、国際基準の遵守と国際的な協力事業支援が必要であるので加盟国 (182 か国) の予算支援が切実

(国連食糧農業機関: FAO) 食料安全保障 (food security) と持続可能な農業の発展に危害を及ぼしている ASF 根絶のためには、国際協力を通じたワクチンの開発、防疫組織能力の強化、情報共有 (科学、政策) が必要である

(カナダ、北米 GF-TAD 会長) ASF 予防のためには予防戦略の策定、強化された遮断防疫、養豚産業の継続性への補償、リスク情報の交換が必要である

(中国農業部副局長) ASF のために 10 億頭以上の豚を失った。今後の管理のためには、早期申告、透明性のある発生情報交換 (OIE へ直ちに通報)、防疫組織の改善だけでなく、継続的なリスク管理が重要である

(ロシア動植物予察庁局長) 小規模 (backyard) 農場の管理 (電子トレーサビリティを含む)、野生イノシシ予察と管理が ASF 拡散防止のために最も重要である

<パネルディスカッション 2 (協力的なアプローチと、世界養豚生産の未来) での主な発言内容>

(Copa-Cogeca) 農家の立場から見ると、養豚産業の維持と良質のタンパク質供給継続のために世界中の政府が協力して ASF 拡散を防がなければならない

(欧州狩猟協会) ASF 拡散防止のためには、増加傾向にある野生イノシシの個体数の減少のための国際協力、狩猟方法・規定の改善、技術開発が不可欠である

(GARA) ASF 管理と根絶を可能にすることができるよう世界的な研究連合を形成して情報交流をしておりワクチン開発研究協力も必要である

(GIRA) 中国の場合、ASF のために莫大な経済的被害*を負い、米国、中国、ブラジル、EU などが中国の ASF 状況に関連する取引に複雑に絡み合っており、少なくとも 5 年は経過してから回復に入ると予測

*中国の豚肉生産は 55 百万トンから 23 百万トンに 27 百万トン減少 (2020.1 時点)

<結論&閉会の辞での主な発言内容>

(EU 保健食品安全局事務総長) ASF 根絶と継続的な養豚産業の発展のためには、国際協力*と共に、個々の国の責任ある防疫が必要

*国境検疫協力、透明な情報開示、国際基準 (OIE) 遵守、ASF 対応事例の共有など

以上